【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成23年11月4日(2011.11.4)

【公開番号】特開2011-149488(P2011-149488A)
【公開日】平成23年8月4日(2011.8.4)
【年通号数】公開・登録公報2011-031
【出願番号】特願2010-11174(P2010-11174)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｋ　1/04　(2006.01)
Ｆ１６Ｋ　1/32　(2006.01)
Ｆ１６Ｋ　15/18　(2006.01)
Ｆ１６Ｋ　15/14　(2006.01)
Ｆ１６Ｋ　35/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｋ　1/04　Ｄ
Ｆ１６Ｋ　1/32　Ｅ
Ｆ１６Ｋ　15/18　Ｆ
Ｆ１６Ｋ　15/14　Ｚ
Ｆ１６Ｋ　35/02　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成23年9月15日(2011.9.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３４】
第３筒部３６には、その軸線方向（矢印Ａ、Ｂ方向）に沿った略中央部から半径外方向に拡径した後、下方（矢印Ａ方向）に向かって延在する第１連結部３０が接続されると共に、前記第１連結部３０の接続される部位と略同一高さで接続部２８が接続されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５８】
取付部１２４は、例えば、流体圧機器Ｓ等に対して外周面に設けられたねじ１３２を介して接続され、その内部には、略一定径からなる第２ポート１６が形成される。この第２ポート１６は、挿通孔１３０の一部を構成している。そして、第２ポート１６には、第１ボディ１４を構成する第１筒部３２のフィン４８が挿入され、その内周面に摺接することによって前記第１ボディ１４が、第２ポート１６を有した第２ボディ１８に対して同軸上となるように位置決めされる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６５】

この初期状態において、流体圧機器Ｓ等から第２ボディ１８の第２ポート１６へと圧力流体が供給されることにより、前記圧力流体が第１ボディ１４のフィン４８によって整流され、第１筒部３２の第１貫通孔３８を通じて上方へと流通する。なお、この場合、第１ボディ１４と第２ボディ１８との間にはチェック弁４４が設けられており、その鍔部４６が下方に向かって開口するように設けられている。そのため、第１ボディ１４と第２ボディ１８との間を通じた圧力流体の下流側への流通が阻止される。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８４】

その結果、第１ボディ１４に装着されたチェック弁４４を確実に第２ボディ１８へと当接させることができると共に、第１連結部３０に装着されたＯリング６２も第２連結部１２８に対して確実に当接させることができるため、前記第１ボディ１４と第２ボディ１８との間の気密を高めることが可能となる。また、第１ボディ１４と第２ボディ１８とを組み付けた後に、同軸上となるように調整するための煩雑な調整作業が不要となるため、組付工数の大幅な削減を図ることも可能となる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９２】

さらに、第２ボディ１５４の締付部１５８には、下面側に環状溝を介してシール部材１６２が装着され、例えば、第２ボディ１５４の取付部１２４が流体圧機器Ｓ等に接続される際、前記シール部材１６２が前記流体圧機器Ｓ等の端面に当接する。これにより、第２ボディ１５４と流体圧機器Ｓ等との間を通じた圧力流体の漏出が防止されることとなる。